

## 第 2 回サイエンスカフェ茨城 報告書

- 日時：** ① 令和元年 10 月 3 日(木) 14:00~16:10  
② 令和元年 11 月 7 日(木) 14:00~16:05
- 場所：** ① 大洗地区 大洗わくわく科学館  
② ひたちなか地区 ひたちなか商工会議所 300 号会議室
- 演題：** 第 1 部〔講演〕  
近年の電力事情とさまざまな事象について  
第 2 部〔卓話〕  
① インカ文明の織物、ペルー・ボリビアのコーヒー  
② 水戸 11 代藩主徳川昭武公が  
渋沢栄一とパリで飲んだコーヒー
- 講師：** 第 1 部 東京電力パワーグリッド(株)茨城総支社 押野武夫氏  
第 2 部 ひたちなか商工会議所会頭 鈴木誉志男氏
- 参加者：** ① 参加者数 23 名(女性 17 名、男性 6 名)、年代 30 代~80 代  
② 参加者数 26 名(女性 15 名、男性 11 名)、年代 20 代~60 代

### 配布資料：

- (1) 〔講演関係〕再エネ賦課金制度による電気料金の負担について
- (2) 〔卓話関係〕①茨城珈琲物語、②同左、渋沢栄一航西日記より
- (3) 〔事務関係〕サイエンスカフェ茨城アンケート用紙

### 報告事項：

1. 開催挨拶；  
司会者から配布資料（再エネ賦課金制度）の説明と講師の紹介があった。
2. 第 1 部〔講演〕  
近年の電力事象について映像とスライドを使って解説がなされた。
  - (1) 台風 15 号による設備被害状況と復旧に向けた第一線現場の取り組み  
茨城県でも 10 万軒の停電があった。千葉県内では暴風に伴う倒木などによる電柱の倒壊被害(約 5,000 件)が多発した。当初、東電グループ関係者 2,300 人で対処した。その後全国の電力会社から復旧要員を含め 1 万 6~7 千人の支援を受けて停電復旧に努めた。
  - (2) 電力流通設備の概要と停電事故の復旧対応
  - (3) 茨城県における再生可能エネルギーの状況  
太陽光発電設置は全国第 1 位である。しかし、北関東北部エリアでは 50kW 以上の太陽光発電設備は、空き容量が無く受け入れられない。
  - (4) 北海道管区のブラックアウト発生事象  
東京電力管区のブラックアウトの可能性は北海道管区よりかなり低い。

### 3. 第2部〔卓話〕

#### ① 大洗わくわく科学館（10月3日）

コロンビアにサザコーヒー独自のコーヒー農園を持っているため、コーヒー本場の中南米を時々訪問している。コーヒー栽培の適地は、北緯20度～南緯20度付近にあり、地球温暖化の影響を受けやすい。適地は標高500～800m付近にあったが、温暖化により1,800mへと移動せざるを得ず、30年間で500m上昇することになった。温度差が大きいほど美味しいコーヒーが採れる。

インカ文明から続いている緻密・繊細でユニークな紋様の織物があり、中南米のボリビア・ペルーなどの女性が手織りした織物を展示され説明された。

卓話の最中、パナマゲイシャ優秀豆、自社農園で採取したマイルドで香りのよいコロンビア豆の美味しいコーヒー試飲の提供があった。

#### ② ひたちなか商工会議所（11月7日）

15代将軍徳川慶喜や最後の水戸藩主徳川昭武はコーヒーを好み、江戸時代末期頃からカフェオレ飲んでいた。慶喜は1866年にフランス公使らを大阪城に招きフランス料理、肉料理、コーヒーなどで大いにもてなした。明治2年（1867年）に謹慎が解かれ、日常生活に積極的にコーヒーを取り入れ、洋食とコーヒーという食生活を楽しんでいた。

水戸藩11代藩主に就任し最後の藩主となる徳川昭武は、慶喜の名代としてパリ万国博覧会へ参加し、スエズ運河を経由してフランスマルセイユへ上陸するまで約50日の長旅であった。船中では毎日フランス料理を楽しみカフェオレを味わったようである。パリ到着直後の日記に「カフェという豆を煎じて砂糖と牛乳を加えた飲物によって胸中が爽やかになった」という感想を記している。昭武のコーヒー好き、コーヒーへの関心度の高さは相当なものであった。

渋沢栄一は、パリ万博へ昭武の随員としてフランスへ渡航する。パリ万博を視察したほか、ヨーロッパ各国を訪問する昭武に随行している。各地で先進的な産業・軍備を見聞すると共に、社会を見て感銘を受ける。パリへの船旅中、「渋沢栄一航西日記」には、食生活を細かく観察し、洋食やコーヒーなど楽しんだ様子が記されている。渋沢栄一は日本を代表する経済人として、紙幣の肖像候補として何度も選ばれたが採用されることはなかった。今度、2024年発行予定の一万円紙幣に肖像が採用されることになったようである。また、栄一は埼玉県深谷市の出身で埼玉を代表する偉人となっている。

卓話の結びとして、ひたちなか商工会議所は原子力容認の立場であり、地球温暖化はコーヒー栽培に悪影響が大きい。害虫発生に対する殺虫剤が土壌中の微生物まで悪影響を及ぼしている旨の説明があった。

## アンケート結果

主な結果（大洗地区）、

- ・参加者数 24 名（男性 6 名、女性 18 名）、年齢 30 歳代～80 歳代、回収数 22 名
- ・講演はよく理解できた（14%）＋理解できた（68%）＝理解度 82%
- ・卓話はよく理解できた（18%）＋理解できた（59%）＝理解度（77%）
- ・講演と卓話の時間の長さは 73%が丁度良いと回答している。

## 企画者の感想

第 1 部の講演は、地元の東京電力パワーグリッド押野武夫氏による最近の台風による被害状況と対応、茨城県における再生可能エネルギーの現状、北海道で発生したトータルブラックアウトの原因などの専門的な内容であったが真剣に耳を傾けていた。このように身近な生活に関係する話題には参加者は十分興味を抱くという傾向が今回も顕著であった。

また、茨城県の太陽光発電設置は全国第 1 位であるが県北エリアでは送電線の容量上新たな設置申請は受付していないというマスコミで報道されていない情報も説明された。

なお、“電力料の内訳”に関する説明は、電力自由化の観点から東京電力からの解説は難しい旨の意見が事前にあった。そのため、「再エネ賦課金制度による電気料金の負担について」と題する説明資料をサイエンスカフェ茨城実行委員会として作成・配布しその旨を司会者から説明した。

第 2 部の鈴木誉志男氏による卓話は、①インカ文明の織物（展示と解説）、ペルー・ボリビアのコーヒー（試飲）【大洗地区】と②水戸 11 代藩主徳川昭武公が渋沢栄一とパリで飲んだコーヒー（カフェオレの試飲）【ひたちなか地区】というように毎回新鮮な内容であり、参加者を魅了している。そして、卓話の始めか結びとして、商工会議所と原子力の関係や地球温暖化とコーヒー栽培との深い関係を説明している。

本「サイエンスカフェ茨城」の目的は一般市民にエネルギーや地層処分に関心をもって頂く契機になり、かつ、地層処分に対する理解者（賛同者）を広げることであることから、4 回シリーズのどの段階も欠かせない重要なテーマを設定すべきであると考えている。

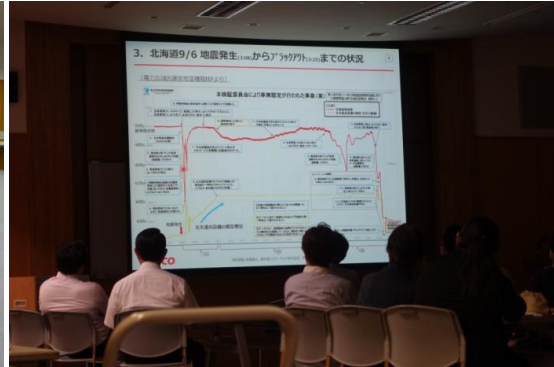
このように、企画者は常に話題（テーマ）の提供と参加者数などについての事前準備を周到にする重要性を感じている。

【開催の様子】

大洗地区



大洗わくわく科学館の講演風景



電力事情などに関する解説



鈴木誉志男氏の卓話とコーヒー試飲



インカ文明と織物についての解説

ひたちなか地区



東電押野武夫氏による電力事情の講演



徳川昭武公と渋沢栄一の飲んだコーヒーの話

以上